

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成21年11月30日

【四半期会計期間】 第40期第2四半期(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

【会社名】 T H K 株式会社

【英訳名】 T H K C O . , L T D .

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 寺 町 彰 博

【本店の所在の場所】 東京都品川区西五反田三丁目11番6号

【電話番号】 03(5434)0300(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営戦略室長 木 内 秀 行

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区西五反田三丁目11番6号

【電話番号】 03(5434)0300(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営戦略室長 木 内 秀 行

【縦覧に供する場所】 T H K 株式会社 大阪支店
(大阪府大阪市中央区高麗橋三丁目2番7号)

T H K 株式会社 名古屋支店
(愛知県名古屋市中区金山五丁目7番4号)

T H K 株式会社 厚木支店
(神奈川県厚木市愛甲1534番1号)

T H K 株式会社 川越支店
(埼玉県川越市小仙波町二丁目29番2号)

T H K 株式会社 明石支店
(兵庫県明石市小久保五丁目3番地の8)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 印は金融商品取引法の規定による縦覧に供する場所ではありませんが、投資家の便宜を考慮し、縦覧に供する場所としております。

1 【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

平成21年11月13日に提出いたしました、第40期第2四半期（自平成21年7月1日至平成21年9月30日）の四半期報告書の記載事項の一部に誤りがありましたので、これを訂正するため四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第2 事業の状況

4 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

(1) 業績の状況

第5 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

注記事項

(セグメント情報)

所在地別セグメント情報

3 【訂正箇所】

訂正箇所は_を付して表示しております。

第一部 【企業情報】

第2 【事業の状況】

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

(訂正前)

<略>

所在地別セグメントの業績は次のとおりであります。

(日本)

国内では、設備投資が減少する中で、新規分野の開拓等を積極的に進めました。しかしながら需要の減少により、主力である工作機械、一般機械、エレクトロニクス向けが大幅な落ちこみとなったことにより、売上高は174億6千5百万円（前年同期は360億6千8百万円）となりました。また、費用の削減に努めましたが、売上高が大幅に減少したことなどにより、営業損失は31億8千6百万円（前年同期は63億2千8百万円の営業利益）となりました。

(米州)

米州では、主力のエレクトロニクス向けや輸送用機器向けにおいて調整が続く中、製販一体となって新規顧客の開拓に努めましたが、全業種における需要の大幅な落ち込みにより、売上高は32億4千1百万円（前年同期は60億3千万円）、営業損失は2億3千5百万円（前年同期は3億8千2百万円の営業利益）となりました。

(欧州)

欧州では、主力の工作機械向け、一般機械向けを中心に需要が大幅に減少する中、米州と同様に製販一体となって新規顧客の開拓に努めましたが、全業種における需要の大幅な落ち込みにより、売上高は28億8千4百万円（前年同期は64億8千5百万円）、営業損失は4億8千8百万円（前年同期は2億5千8百万円の営業利益）となりました。

(アジア他)

アジア他では、中国において前年同期に比べ主力の工作機械向け需要が低水準で推移する中、引き続き将来の成長に向けた営業体制の強化など積極的な営業展開を図りました。また台湾では現地工作機械メーカーの輸出が低水準で推移する中、新規顧客との取引拡大に注力しました。しかしながら需要が大幅に減少したことなどにより、売上高は21億8千8百万円（前年同期は40億8千3百万円）、営業損失は5億1千4百万円（前年同期は2億1千6百万円の営業利益）となりました。

(訂正後)

<略>

所在地別セグメントの業績は次のとおりであります。

(日本)

国内では、設備投資が減少する中で、新規分野の開拓等を積極的に進めました。しかしながら需要の減少により、主力である工作機械、一般機械、エレクトロニクス向けが大幅な落ちこみとなったことにより、売上高は174億6千5百万円（前年同期は360億6千8百万円）となりました。また、費用の削減に努めましたが、売上高が大幅に減少したことなどにより、営業損失は12億3千3百万円（前年同期は63億2千8百万円の営業利益）となりました。

(米州)

米州では、主力のエレクトロニクス向けや輸送用機器向けにおいて調整が続く中、製販一体となって新規顧客の開拓に努めましたが、全業種における需要の大幅な落ち込みにより、売上高は32億4千1百万円（前年同期は60億3千万円）、営業損失は2億2千8百万円（前年同期は3億8千2百万円の営業利益）となりました。

(欧州)

欧州では、主力の工作機械向け、一般機械向けを中心に需要が大幅に減少する中、米州と同様に製販一体となって新規顧客の開拓に努めましたが、全業種における需要の大幅な落ち込みにより、売上高は28億8千4百万円（前年同期は64億8千5百万円）、営業損失は4億9千5百万円（前年同期は2億5千8百万円の営業利益）となりました。

(アジア他)

アジア他では、中国において前年同期に比べ主力の工作機械向け需要が低水準で推移する中、引き続き将来の成長に向けた営業体制の強化など積極的な営業展開を図りました。また台湾では現地工作機械メーカーの輸出が低水準で推移する中、新規顧客との取引拡大に注力しました。しかしながら需要が大幅に減少したことなどにより、売上高は21億8千8百万円（前年同期は40億8千3百万円）、営業損失は2億3千5百万円（前年同期は2億1千6百万円の営業利益）となりました。

第一部 【企業情報】

第5 【経理の状況】

1 【四半期連結財務諸表】

【注記事項】

(セグメント情報)

【所在地別セグメント情報】

(訂正前)

当第2四半期連結会計期間(自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)

	日本 (百万円)	米州 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	17,465	3,241	2,884	2,188	25,780		25,780
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,350	7	9	24	2,343	(2,343)	
計	19,816	3,248	2,893	2,164	28,123	(2,343)	25,780
営業損失()	3,186	235	488	514	4,425	876	3,548

(訂正後)

当第2四半期連結会計期間(自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)

	日本 (百万円)	米州 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	17,465	3,241	2,884	2,188	25,780		25,780
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	<u>4,304</u>	<u>14</u>	<u>2</u>	<u>254</u>	<u>4,576</u>	<u>(4,576)</u>	
計	<u>21,769</u>	<u>3,256</u>	<u>2,886</u>	<u>2,443</u>	<u>30,356</u>	<u>(4,576)</u>	25,780
営業損失()	<u>1,233</u>	<u>228</u>	<u>495</u>	<u>235</u>	<u>2,192</u>	<u>1,355</u>	3,548